

北の技から

～ 監獄からのたより～



2023
VOL.03

く帯広刑務所の農業を通じた社会復帰と地域との「つながり」く





十勝

帯広刑務所が所在している十勝地方は、北海道の東部に位置し、青森、岐阜、鹿児島各県よりも大きく、広大な十勝平野を形成しており、また、平野中央を南北に貫流する十勝川は、全国第6位の流域面積で、大雪山を源として太平洋に注いでいます。

帯広市は、十勝地方のほぼ中央に位置し、農業を主産業とする十勝地方（1市16町2村）の中心都市としての役割を担っています。

市街地道路は碁盤の目となっているが、これは開拓期から計画的に作られた「市街区画」によるものです。

気候は、典型的な大陸型で、夏は30度を超え、冬は氷点下20度以下という、年間気温差60度にもなる。また、1日の気温差も大きく、平均10.5度となっている。これらは晴天の日が多いことによるもので、日照時間の長さは日本有数です。

帯広刑務所の沿革

帯広刑務所は、明治26年3月に北海道集治監釧路分監帯広外役所として開設されたのが始まりとされ、明治28年4月には、北海道集治監十勝監獄として開庁しました。その後、集治監制の廃止により十勝監獄と改称、大正11年に監獄名称の廃止により、十勝刑務所と改称になりました。

大正13年には釧路刑務所の支所、昭和11年には網走刑務所の支所となった後、昭和14年に帯広少年刑務所として独立しました。

昭和18年に官制改正により帯広刑務所と改称となった後、昭和51年に現在地である別府町に移転して現在に至っています。

近年では、平成19年に釧路刑務所が、帯広刑務所の支所となっています。

帯広刑務所の作業

現在、帯広刑務所では、生産作業（業種は木工、金属、農業、その他）、自営作業（炊事、洗濯、営繕、清掃）、職業訓練（農業コース、溶接科、ビジネススキル科）を行っているほか、社会貢献作業、職場体験を実施しています。

特に金属作業は、地元農機具メーカーや金網製作会社からの受注が多く、主要な作業となっています。

また、木工は、地元木材でもある、カラ松材を使用した製品作りを実施しています。



北海道東部所在刑事施設における「農業モデル」

北海道東部所在刑事施設農業モデルは、令和元年度から運用が開始され、刑務作業等の中で就農に必要な資格取得や、知識・技能を身につけさせ、出所後の就農に結び付けることを目的として、受刑者の生活及び行動に関する制限を段階的に緩和し、一般社会にできる限り近い開放的な環境において農業に従事させることで受刑者の改善更生を促進させる取組です。

現在は、札幌矯正管区管内の帯広刑務所、旭川刑務所、網走刑務所にて実施されており、帯広刑務所では座学研修やトラクターの操作研修等、帯広刑務所、旭川刑務所、網走刑務所では農場での農作業の実践等を行っています。



出所後の夢、 目標が明確に。



農業に従事している 受刑者の声

農業モデルでは、現在2か所の畑やハウスで約30種類もの野菜を栽培しています。同じ野菜でも時期をずらして種をまき、収穫のタイミングを変えたり、同じ時期に植えた野菜でも長芋やゴボウなどは、秋掘りと春掘りに分け、越冬させるなど色々な工夫がなされています。夏は猛暑日が続き、炎天下の中、大変な作業も多いですが、資格を取得させていただいたり、



トラクターに乗って実践的な作業を多く取り入れるなど、私が出所後の夢、目標がより明確になってきました。それは、実家の農業を継ぐことです。今まで私は刑務所に入ってしまったことをマイナスにしか捉えることができませんでしたが、今回このような機会を与えていただいているので、受刑生活を振り返ることが

でき、きっと私は農業の本当の魅力に気が付くため、農業をやるために今ここにいます。前向きになることができました。ここで学んだことを活かして、多くの人達に喜んでもらえる農業を目指すと、ここで宣言します。そして、もう二度と刑務所に戻ってくることはないよう改心いたします。

「見られている」ことを 意識しながら。

刑務官（農業担当） の声

私は、受刑者に「常に見られている立場であることを忘れずに」と日頃から伝えていきます。その言葉は、受刑者だけでなく、自分自身にも言い聞かせて勤務をしています。「見られている」ことを意識することにより、自分が今何をすべきなのかを考えて行動することが大事だと思うからです。それで得られる成功や失敗の経験を積み重ねて社会復帰をしたときに活かしてもらいたいです。



農場での一年を通して 感じるやりがいとは。

農場での勤務は、一年を通して過酷で夏と冬の寒暖差が50度以上にもなります。その環境の中、受刑者が、自ら手で育てた農作物を収穫し、出荷準備をする一連の作業から達成感を得ている姿を見られることが私自身もうれしく感じ、やりがいを感じることができます。





農業を教えるということの 難しさや楽しさ。

作業専門官（農業担当）の声

作業専門官という仕事に就いてから、農場での作業指導も25年を過ぎましたが、指導する受刑者の基礎的知識や経験の違いなどから、彼らに農業を伝えることの難しさはいまだに感じており、農作

業自体もそうですが、ほぼ毎日、トライアンドエラーの繰り返しです。ただ、例えば、マニュアルどおりにやっているとなく上手くいっていることより、失敗を重ねて、どう改善するかを考えることのほうが大きな学びになると思っています。

社会に戻った時に 役立つであろう 農作業の厳しさ。

作物の収穫までの過程は、地道な作業の積み重ねです。かけた労力の全てが報われることもなく、様々な制約があったり、天候に左右されたりと、農作業は思い描いたとおりにならないことが多々ありますが、他者に責任を転嫁せず、自らで対処できる力を身に付けて次に繋げられるようになっていければ、それはきっと社会に戻った時にも役に立つことなので、受刑者には、しっかりと農作物栽培に向き合ってもらいたいと思います。



地域との連携が励みとなり、再犯防止に繋がることを祈って。

援農について

帯広刑務所では令和3年から農業モデルの一環として受刑者に刑務所の外での農業を体験させるため、近隣農家と契約して、農作業、いわゆる「援農」を実施しています。実施に当たっては、農機具・農業資材販売も実施している有限会社クリーン農機に御協力いただき、同社が所有している農場内で、令和4年は、ごぼう畑の除草作業や収穫した長芋の土落し作業をさせていただきました。

援農を実施するに当たり、何より同社が、受刑者として様々な制限があることにもご理解を示してください。農作業をお手伝いさせていただくことで受刑者の改善更生や再犯防止に繋がるのであれば、今後も協力していきたいとおっしゃってくれることが受刑者の励みとなり、地域との連携の大切さを感じています。また、代表取締役である磯信三氏からは、「私たちも高齢になってきているため、除草や長芋の土落しなどの仕事を刑務所でやってもらえることは非常にうれしい」という言葉をいただいていますので、今後も同社を始め、地域のご理解とご協力をいただきながら、援農を実施していきたいと考えています。



(有限会社 クリーン農機 磯信三氏)



帯広刑務所の刑務所作業製品の紹介

心を込めて育てたひとしな



ファイヤースタンドS

今、流行中のアウトドアシーンの焚き火に便利なファイヤースタンドです。安定感抜群でデザインも独特なので、他人とかぶることがなく個性が欲しいと思う人には最高のアイテムです。



シマエナガの壁飾り

スタンドグラスで制作しており、フック等で壁や窓ガラスに掛け、お部屋の可愛いインテリア雑貨として使用できます。



多目的ボックス

飽きのこないシンプルなデザイン。お客様のアイデア次第でいろいろなものを収納することができます。



座れる木箱

人気の木箱を丈夫にして腰掛けとしても使えるように作りました。カラーバリエーションもあって楽しくなります。



バーベキューコンロ 大

古くから多くの人に丈夫かつレトロな外観で愛されているバーベキューコンロです。アウトドアや庭でのバーベキューに最適です。



キャンドルスタンド

スタンドグラスのシェードです。ゆらぎのある炎でスローライフをお楽しみください。

お問い合わせ先 帯広刑務所 帯広市別府町南13線33番地 0155-48-7998(作業部門直通)

農林水産省のYouTubeチャンネル

『BUZZ MAFF(ばずまふ)』で「農業モデル」を紹介しています！



農業モデルパンフレット

刑務所から農業の担い手を～
北海道東部所在刑事施設における農業モデル～



北の技から ～監獄からのたより～ VOL.03

- 【取材先】 帯広刑務所
- 【取材協力】 有限会社 クリーン農機
- 【企画・編集】 札幌矯正管区第二部成人矯正第二課
- 【発行】 札幌矯正管区
〒007-0801 北海道札幌市東区東苗穂1条2丁目5番5号
TEL 011-783-3911